

源重郎池

相生市矢野町

播磨の国の赤穂郡小河村は、木がたくさんしげり、道はくねくねとまがり山の方へ通じていて、小さな川が流れています。家は数十けんあって、昔から水が少なく、村人はいつも水不足を心配していました。この村の光庵源重郎は、心は正しく、思いやりの深い人でした。

かつて江戸時代の文化という年に、源重郎様は自分の家の田をつぶして池をつく

りました。池はたくさん水をためることができました。源重郎様は自分の田だけでなく、村人の田へも水を送ろうとしました。そのおかげで、この村は水の心配もなく、農業の仕事をすることができました。また、あまった水となり村にも分けてあげました。それからというものの、米・麦・あわ・豆・ひえなどが豊かに実りました。このことで、徳川幕府の将軍からほうびに、金や銀をもらいました。

年がたって、江戸時代の天保三年（一八三三年）の夏は大ひでりで、いねのなえはかれて、村々では空を見あげても雲ひとつなく、もちろん、にじなどを見ることはできませんでし

た。しかし、小河村は安心していることが
できました。これも源重郎様のおかげです。
そこで、また、将軍からほうびをもらいまし
た。

光庵源重郎は、池を池所（いけどこ）とい
うところにほり、村人はその池の水をたくさ
んもらいました。今、ここに、小河村の人々
が、お金を出しあって築池記念碑をたてまし
た。光庵源重郎様が池をつくられたおかげ
で小河村の人々は、大変助かったことをいつ
までも伝えてほしいと思います。そのため
に書きました。

